

## 【浦臼町 校務DX計画】

浦臼町では、一人一台端末の導入後、授業支援ツール、デジタルドリルや学習eポータル等の活用や、デジタル教科書の導入を進め、教育のデジタル化を推進してきた。

また、令和2年度に北海道共同利用型校務支援システムを導入し、教職員の事務負担を大幅に軽減させたり、教職員個人へのメールアドレスの付与、保護者への連絡ツールのデジタル化を行うなど、働き方改革を進めてきた。

今後、校務DXを推進するために「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言（令和5年3月）や、GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストによる自己点検の結果等を踏まえ、具体的な取組みを次のとおり設定する。

### 1. 校務系及び学習系ネットワークの統合、ゼロトラスト型セキュリティシステムの構築

現在、浦臼町立学校のネットワークの構成は、児童生徒の個人情報等を取り扱う「校務系ネットワーク」、児童生徒が教育活動で利用する「学習系ネットワーク」の2つに分離しており、このうち、「校務系ネットワーク」は、インターネット経由で児童生徒の個人情報等にアクセスできない境界分離型の構成としている。境界分離型ではデータの連携が困難であること、業務を行う場所の制約を受け、柔軟に校務処理ができず、ペーパーレス化への阻害要因となっている。

今後、教職員の働き方改革、学習指導・学校経営などの教育活動の高度化をめざし、ゼロトラスト型のネットワークへの移行や、学校の業務に関する主要なシステムをフルクラウド化し、業務効率化、校務系・学習系ネットワークの統合について検討を進める。

### 2. 校務支援システムのクラウド化

令和2年度より北海道共同利用型校務支援システムを導入し、校務の情報化や教職員の人事異動に伴う負担軽減を図っている。しかし、現行のシステムは校務系ネットワーク上で運用しており、学習系ネットワークで生成されたデータと校務支援システムに蓄積された校務系データの連携が困難であること、緊急時に自宅や出張先で校務処理ができないことなどの課題がある。

これらの課題について、教職員の働き方改革を推進するために、どの環境からでもアクセス可能となるよう、既存システムのパブリッククラウド化を検討する。

### 3. クラウドツール活用の推進

現在、全ての教職員に個人メールアドレスが付与されており、教職員間や教職員と児童生徒の情報共有や連絡等にクラウドサービスを活用している。

保護者や児童生徒への調査やアンケートにおいてもデジタル化が進んでおり、地域にも校務のデジタル化が浸透しつつある。

より一層デジタル化を推進するために、先進地の事例や研修会の実施により、各学校におけるクラウドサービスの利用が広がるよう支援していく。

### 4. FAX・押印等の見直し

浦臼町立学校では事業者とのやりとりにFAXを活用している。また、保護者や外部との書類で押印・署名が必要なケースがある。全てを即時廃止することは難しいため、FAXや押印・署名等が必要な事項について、漸次見直しを行うとともに、FAXでの送付や押印を求めている関係団体・事業者等にも見直しについて協力を求める。

### 5. 教育情報セキュリティポリシーの策定

浦臼町が保有するネットワーク、情報システム及び設備や情報資産を保護し、適切に管理するため、教育情報セキュリティポリシーを策定し、随時改正を行って情報セキュリティに関する意識向上につなげる。